

育成センターだより

令和4年度
No. 424

長野市少年育成センター
TEL. 228-8547
FAX. 224-0109

全国子ども・若者育成支援強調月間（11月） 全国児童虐待防止推進月間（11月）

年末の育成活動

「秋の日はつるべおとし」といわれます。秋になると、日没の時刻が早まるだけでなく、その後の薄明の時間も短くなり、日が沈んで間もなく真っ暗になってしまいます。わかっているものの、気を付けたい時間帯です。

今年、冬季オリンピックが開催されました。当時もコロナ対策に力を入れていましたが、今もなお、猛威を奮っています。そのため、ワクチン接種の回数が増えるとともに、今まで考えられなかったことが日常化するようになりまし。学校では、修学旅行、学校祭、運動会、音楽会など、新型コロナウイルス感染症防止対策をすることで、3年目にして以前のように多くの行事を行えるようになりました。そんな中で子どもたちは着実に成長をしています。大人は、子どもたちを見守りながら、家庭・学校・地域が連携し、環境の浄化、声かけ、非行防止に努めてまいります。

育成活動の重点

★ スマホ・ゲーム機の使い方やテレビの視聴 心と体は大丈夫？

トラブルや依存が増え、乱れた生活になっていませんか。親子でルールをつくり、使う環境を整えましょう。

★ 早寝 早起き 朝ごはん

朝、気持ちよく起きるサイクルを大切に。一日のスタートを元気よく。

★ 時間を見て 早めに行動しよう

秋冬は、暗くなる時間が早くなります。遅い帰宅、深夜徘徊に愛の眼差し・声かけを。

★ 「子どもの相談は受け止め 寄り添い 語り合い」

相談は、説教・指導の前に、まずはしっかり聴くことから。そして共に未来を語り合います。

「子どもと共に考える」

川中島小学校長 石神 王 貴



新型コロナウイルス感染症も新たな段階に移行し、各学校では適切な感染防止対策を講じた上で、可能な限り教育活動を実施するよう慎重に検討を重ねています。校内外にも元気に跳びまわる子どもたちの姿が見られ、徐々に活気が戻りつつあります。

ところで、夏休み中に行われた学校少年育成委員による巡回指導の反省の中に「子ども達の外遊びが極端に減っている。また、コロナ禍であるために子ども達が個々に家庭で過ごすことが増え、ゲームやネットに長時間を費やす心配がある。」や「ゲーム中心の生活になりがちな子どももいたように、家庭での過ごし方について実態を把握したり、保護者への啓発を継続したりしていく必要を感じた。」とありました。

GIGAスクール構想が加速化し、学校ではその活用法と共にネットリテラシーにも積極的に取り組んでいます。家庭への持ち帰りも始まり、保護者との連携が必要不可欠になってきています。長野市ではPTA連合会で「親子の3ステップ」が配布されていますが、どれだけ活用できているでしょうか。親子で話し合っ

ルを決めて、一緒に確認できているでしょうか。上手に活用している有能なツールとして無限の可能性が広がっていきませんが、使い方を間違えると健康被害やネットトラブルに発展してしまいます。例年「スマホ、タブレット、ゲーム機等に関するアンケート」の結果が県教育委員会のホームページに公表されています。危惧することとして、スマホやタブレットの使い方や使う時間など、子どもと親との間で認識に差があるということ。また実際にSNSやオンラインゲームなどで、ネット上のいじめや人間関係の亀裂に発展し、大人が気づかないうちに問題が大きくなっているとあります。今の子どもたちはタブレットなどの通信機器が必需品になりつつあります。正しい知識や使用のルールを最初に教えるのは大人です。学校や保護者、そして地域でもこのことを話題に取り上げ、子どもが安心して安全に利用できる環境を作り、見守っていくことが大切です。これから予測困難な社会を生き抜いていく子どもたちに、私たち大人が真の豊かさを子どもと共に考えていきましょう。

負けるな!!まめっ子

大豆島地区住民自治協議会
子ども育成部会部会長

山岸賢一

大豆島地区住自協子ども育成部会では、『地区内の子ども育成関係者が共に手を携えて、青少年の健全育成問題に取り組む事業活動を推進していく事』を目的とし、総勢37名で活動しています。令和2年度からはコロナ禍の中、ほとんどの活動が中止となり、歯がゆい思いをしながら過ごしている状況です。

主な事業は、子ども達の健全育成に関わる事業の推進、地区育成会事業・各クラブ活動・PTAとの連携と協力、大豆島地区の関係団体等との協力、長野市等で開催の研修会への参加など行っています。中でも、子ども達の健全育成に関わる事業では、小学校の長期休みに部員が7地区に分かれ巡回指導を行っています。もう一つ大事な事業があり、その事業についてご紹介したいと思います。



ビンゴ会場

の健全育成に関わる事業では、小学校の長期休みに部員が7地区に分かれ巡回指導を行っています。もう一つ大事な事業があり、その事業についてご紹介したいと思います。

大豆島地区では7月末に地区を挙げて行う大豆島甚句まつりが毎年盛大に開催されています。平成16年第25回の開催に合わせ、子ども育成部の前身の育連協により『まめっ子縁日』が企画開催され、令和元年まで継続して実施されてきました。まめっ子縁日は子ども達自ら楽しみ活動する場として5・6年生の希望者がスタッフとなり、まめっ子リーダー研修会でポスター作製や事前準備を行います。当日は子ども達が、スーパードールすくい・かき氷・輪投げ・ビンゴゲームなど各縁日ブースのスタッフとして前面で活躍し、大人がサポートに回ります。毎年大勢の子ども達が集まり、チケットを手にとり、夏の良い思い出作りとなっています。今はコロナ禍の中、ただ手を拱いているだけでなく、負けずに頑張っている子ども達の為に何か一つでも出来る事が無いか部会で検討し、また関係者の御意見や御協力を得ながら子ども達を応援していきたいと考えています。



エアートランポリン

生徒指導学校関係者合同研修会が3年ぶりに開催

これまで、小・中・高校の生徒指導関係者が一堂に会し、合同研修会が行われていました。しかし、この2年間、新型コロナウイルス感染症防止のため開催することができませんでした。今年度は、参加者数を半分ずつに分け、2日間で開催することができました。小学校部会では、信州大学教育学部教授「上村恵津子先生」より「問題行動への理解と対応」について講演をいただきました。

小学校2年生、授業から逸脱して、教室内でうろろうろし、寝転んだり教室から出て行ってしまったりするA君に、「授業中は、離席しないでほしい」と願う担任の先生を事例にして、どう理解し対応していくのか考え学ぶことができました。参加者の皆さんからは多くの感想をいただきました。

- 「こうあらねばならぬ」と一生懸命になり過ぎていて先生の顔が思い浮かびました。いつかこの講演内容を伝えられたらと思います。
- 子どもの立場にたつて原因を見直し対応する。その原則を大切にしたいと思いました。教師の見方が変われば子どもも変わるのだろうと思いました。
- 問題行動に出会うと自分の力不足だから、授業力がないからと自分を責めるほうにはかり向いてしまいが、その子の背景には何があるのか、どう寄り添うことが必要なのかよく考えていきたいです。

中・高・特別支援学校部会では、長野市消費生活センターの「下村貴志先生」に「成年年齢引き下げに伴う問題」について講演をいただきました。今年の4月から成年年齢が18歳となり、それに伴う問題について具体的に示していただきました。

多くの学校から指導の必要性を感じる感想をいただきました。



生徒指導学校関係者合同研修会

●年代別に巻き込まれやすいトラブルを教えていただき、どのような対処の仕方が必要かわかった。消費者庁のホームページを紹介いただき、これからの子どもたちに教えていかなければならないことを学べた。

●契約について普段意識していなかった詳細について確認することができた。成年年齢引き下げに伴い、未成年者が取り消していた権利を使用できなくなるトラブルが今後懸念される。消費者トラブル「儲け話」「美容関係」「定期購読」など注意する必要があると知った。また、生徒に正しい情報を伝えるために私たち教師も正しい知識を得る必要がある。

住民自治協議会訪問

平成22年3月に、長野市少年育成委員協議会が解散し、少年育成委員制度が廃止されました。そのため少年育成委員による巡回指導は、各地区の選択事務に委ねられるようになりました。以後、多くの地区で巡回指導や環境浄化活動は、各地区独自の取組をもって継続いただいています。少年育成センター職員は、毎年32地区に出向くときに、住民自治協議会をお訪ねし、少年育成センターとの連携と、健全育成活動の取組への理解と協力をお願いしています。



三輪地区巡回指導及び出前講座

少年育成センターでは、年2回程、住民自治協議会を訪ねています。各地区においては、「コロナ禍ということもあり、行事などの取り組みが、なかなかできないことも多い。2、3年行事を行わないことで、次のつながらないのではないかと悩みも聞かれました。

立入調査

長野市青少年保護育成条例第六条には、「市長は、著しく粗暴性や残虐性を助長したり、はなはだしく性的感情を刺激したりするおそれのあると認められる図書類を『有害図書』として指定することができる。」とあります。また、「何人も有害図書類を青少年に販売し、読ませ、見せ、聴かせるなど、してはならない。」となっています。

長野市少年育成センターでは、青少年保護育成条例にのっとり、書店、DVD販売店、コンビニ店全店において、市条例の周知状況を把握するとともに、有害図書類を扱っている店舗については、条例の規定に適合しているかどうか、有害図書類の有無や陳列方法は適正かを調査し、表示板の掲示状況など確認しています。今年度の立入り調査は12月まで続きます。



酒類には必ず表示板があります



有害図書類がないか点検します

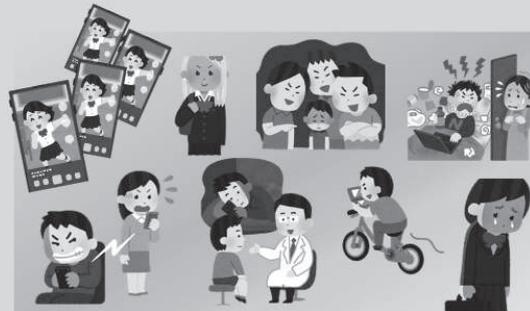
これまでのところ、立入調査を実施したほとんどの店舗は、青少年保護育成条例に基づいて有害図書が適正に管理され、酒、たばこ類の陳列・表示、年齢による販売状況も適切に行われていました。また、ほとんどのコンビニ店では、成人コーナーは見られなくなりました。各店舗のご協力に感謝申し上げます。

しかし、よく見ると、性的な描写のページ数が多かったり、表現が露骨だったりするものも見受けました。展示の仕方を工夫するなど青少年がすぐに見れないように店主と相談をしました。また、店長はじめスタッフの方々に、気になる青少年には積極的に声をかけをお願いします。声かけができなくても、店内や駐車場における青少年の心配な動きについて通報や情報共有をお願いします。

少年相談

長野市少年育成センターでは、子どもの非行問題や生活問題などに関する相談を受けています。最近では、SNS等ネットトラブルやゲーム依存などの相談も多くなりました。「ひとりで悩まないで、抱え込まないで、まずは相談から始めませんか」

寄せられる電話相談
あなたの周りでは 困っていないでしょうか



★困ったら…困る前に★

少年育成センター相談ダイヤルへ

電話 228-8588

月々金曜日 8時30分～17時15分

※匿名でOKです

来所の相談も応じています

心配事があれば話を伺います。

出前講座

今年の出前講座は、小・中学校の生徒や保護者のみなさん、学校保健員会や住民自治協議会など、各方面から要請をいただき実施してきましたが、事前打ち合わせをしながらも、新型コロナウイルスの感染が拡大し中止となることもありました。

今年度は、出前講座のやり方を工夫し、放送室から各教室へ配信したり、ズームを使って学校の職員室から各家庭や教室へ配信したりするやり方ができました。

ある小学校では、普段の職員会などもズームを使って行われており、その延長として、学校保健委員会がネット配信で開催されました。出前講座も同様にネット配信され、DVDもパワーポイントもスムーズに行うことができました。これなら、出前講座として各学校へ訪

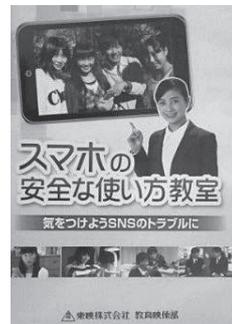
各



芋井小学校での出前講座の様子

問しなくてもネット配信でできることを示唆いただきました。また、少年育成センターでは、ネットトラブル、学校防犯スクール、教員のための保護者対応向上など各種のDVDを貸し出しています。それを借りて各校や生徒指導の委員会等で研修会を行うこともありました。

D V D の 紹 介



スマホの安全な使い方教室



子ども防犯スクール



教員のための保護者対応力向上シリーズ1~6

DVDは、他にも多数用意しています。詳しい紹介はホームページをご覧ください。

申し込みは電話 2288-8547

長野市少年育成センターまで

学校少年育成委員による巡回指導

小・中・高校の学校少年育成委員110名が、各地区で巡回指導をしています。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループ巡回をやめて委員単独で校区内の巡回指導を行いました。

主に、コンビニ店、カラオケ店、ゲームセンター、映画館、インターネットカフェ、書店、公園、駅、量販店、交番などを巡回しました。今年は、夏と春の2回実施します。

○人気がなく敷地が一段高いところにあるため、敷地全体が死角。ベンチやテーブルなど居場所となりうる場所があるものの、雑草が伸び放題で荒れており、ますます死角になっている。荒廃した状況は、防犯の観点からも要注意。(神社)

○ゲームセンターの店員、おもちゃ屋の店員に、最近の様子について聞き取りをした。親子連れがほとんどで「子供だけで利用している姿は見られ

ない」ということだった。本日も、ゲームセンターを訪れていた親子は一組しかおらず、クレイムゲームを楽しんでいた。書店でゲーム本を立ち読みしている児童の姿があり声をかけたが、母親は買い物中とのことだった。



カラオケ店での巡回指導

○コンビニでは、迷惑行為については聞かなかったが、子供だけで買い物に来ることは耳にした。保護者が把握している場面もあるだろうが、児童3~4人で店に来るとい話を聞く、家の用事ではなく、遊びに行く途中でお菓子を買って行く様子が伺える。児童だけでなく家庭へも呼びかけて問題にならないようにしたい。

学校少年育成委員の皆様、ありがとうございました。



編集後記

出前講座は、自分の机上から配信できることを学んできました。しかし、本当にできるだろうか自分のスキルを心配しました。このままでは、差が開くばかり。変化が激しい時代、ため息ばかりでなく、挑戦だけは続けたいものです。年末が近づきました。今年やり残したことはないでしょうか。あと一か月頑張ってみましょう。